
ウェアイズWC

珠虹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウェア イズ WC

【Nコード】

N9276A

【作者名】

珠虹

【あらすじ】

アメリカに留学している高校生が、巨大ショッピングモールでトイレを探す。言葉の違いと強烈な尿意が、容赦なく彼を襲う。…はたして彼は、トイレにたどり着くが出来るのか？

（前書き）

駄文ですが、楽しんでもらえたら嬉しいです。

オレの名前は尿井藻世男。^{ニョウイ モヨオ} 現在アメリカに留学している高校生だ。今は巨大ショッピングモールで買い物を楽しんでいる……予定だった。

そんな予定は見事に崩れ、オレは今、人生最高のピンチに直面している。

それは、非常に強烈な尿意だ。たちの悪いことに小の方にお節介になっっているわけだ。

そんなのトイレに行けばいいだけじゃないか、と思う人もいるかもしれない。しかし、それが出来ていればオレだって、こんな所で油なんて売っていない。

なにせここは外国なのだ。日本とは言語も文化も全く違う。そんな中でトイレを見つけるのは、そんなに簡単な事じゃない。

しかも、このショッピングモール。大きさが尋常じゃない。これは予想でしかないのだが、恐らく東京ドーム50個分はあるだろう。名古屋ドームなら53個分だ。さすがアメリカ、規模が違う。遠く

の景色が霞んで見えない

しかしながら、こんな所で漏らすわけにはいかない。そんな事をしってしまったら日本の恥さらしである、切腹ものである。なぜなら、今日のTシャツは堂々と日の丸を背負っているのである。

どうにかして、トイレを見つけないければ。しかし、これ以上歩いて探す余裕はない。尿意はもうそこまで来ている。時間が無い。やはり、ここは人に訪ねるのが一番いいだろう。だが、英語で

「トイレはどこですか」

ってどう言えばいいのだろう？

てか、トイレは英語でなんて言うんだ？

ベンジョー？違うな。

ベンキー？いや、違う。ウォッシュレトロー？違う違うー！！

トートー？なんか惜しいかも……でも違う。

トイレ、トイレ、トイレ……

あ！分かったぞ！WCだ！

これでいける。トイレに行ける。これでトイレで逝けるぞ！！

お！向こうから赤毛のオバサンが歩いてくるぞ。よし、あの人に聞こう。

「エクスキューズミー！ホワット イズ WC？（すみません、トイレは何ですか？）」

よし！完璧だ。早く！早く教えるんだ、オバサン！

「WC イズ ウリネー ションスポット（トイレは排尿する所だよ）」

はい？ウリネ……何を言ってるんだ、このババアは。トイレの場所を教えると言っているんだ！さつさと教えてくれよ。

「ホワット イズ WC？リアリー？ホワット イズ WC！オーケー？（トイレはどこなんだ？言ってる事分かってる？トイレはどこかって聞いているんだ、クソババア！頭大丈夫か？）」

「ホワイ？アーユーオーケー？（人が親切にしてやっっているのに、なんだその態度は！？波田陽区みたいに存在かき消してやろうか？このファッキンジャポニカ！！）」

う……なんだこのババア、かなりできる。オレを恐怖させる程のオラだと！？こいつには……勝てない。

「ソ、ソーリー（ご、ごめんなさい。せめてケイン・コスギくらいで堪忍して……）」

「オウーノー（ちっ、分かればいいんだ。これに懲りたら、二度とアメリカ人なめるんじゃないよ！）」

オバサンは刺すような視線でオレを貫いた後、肩を怒らして去っていった。

外人こえーよ。オバサンこえーよ。

もう内心のガクブルに押せれて、オレの股間はマジMAXに近づいてきた。さっきのは何がだめだったんだ？くそ、神様はなんて極

悪非道で殺戮無慈悲なんだ。

——テロリン♪

奇妙な効果音と共に、オレの中に神様が舞い降りてきた。

「迷える子羊よ。そなたの望みを1つだけ聞いてやるう」

おお、神よ！オレは信じてたよ！

「お願いします、神様。オレをトイレまで連れて行って下さい！」

「うるさいわ、ボケ！私は極悪非道なんだろ？トイレぐらい自分で探せえ、この小便たれ」

ああ、コイツ根にもつてる！神のくせに、心狭っ！

「まあ、ワシも鬼じゃねえけん。ヒントぐらい教えてやるけんのお。ウェア イズ WC って言ってみい。そしたら後は自分で何とかせえ。ほなな」

そう言つて神様は煙と共に消えていった。

てか怖っ！何故に広島弁？

でも、神様のおかげで正確な英語が分かったぞ。ありがとう、神様。しかし、オレの股間はフルスロットルをきっている。時間との勝負だ。

前の方から感じの良さそうな金髪の青年が歩いてくる。

今こそ、決戦の時！！

「エクスキューズミー。ウェア イズ WC？（すいません。トイレはどこですか？）」

「オウ、フロローミー（ああ、着いてきな）」

青年は手招きしながら、歩いていく。

着いて来いつてことか。やったー、ついにトイレに行けそうだ。

オレは青年の後ろを、内股で歩いていく。油断したら氾濫しそうだ。すれ違う人々はオレを見て、

「ルックアット！クレイジーボーイ」

「サムライ！ハラキリ！全て想定範囲内です」

えっ！？想定範囲内？すべて想定していたのか、あの人は！すごいよ、細木数子なみだよ。

そんなこんなで、いつの間にか大きな青いドアの前に辿り着いていた。

「ヒア！（ここだよ）」

こ、ここかつ！助かった、彼は命の恩人だ。

オレは青年と固い握手を交わして、お礼を言った。

そして、ついにドアノブに手を掛け、開く。

——ざぱ。

ドアの中から大量の水が溢れ出してくる。

青年はとびきりの笑顔で、親指をたてながら、

「WC」
ウォークローゼット

WC？ウォークローゼット？貯水庫？

ぬわにー！？

間違いだよ！お兄さん、コレ間違いだよ！

しかし青年はどこ吹く風、にこやかに手を振って去っていく。その瞳の奥が黒光りしたように見えるのは気のせいだ。

……いや、遠くからあの青年の高笑いが聞こえる。

あの野郎！確信犯だな！鬼だ！絶対訴えてやる！

さあ最強弁護団の判決は？

慰謝料を……取れない・取れな・取れない・取れる。

慰謝料を取れない三人に、丸山だけが真っ向反論！なんて頼りないんだ！

はあっ！？あまりの怒りに幻覚を見てしまった、いかんいかん。

流れる水のせいで、オレの体は全身びしょびしょだ。この状態でしちゃっても、水だかなんだか分からないんじゃないだろうーか……なんて悪魔の囁きにはオレは負けない！……多分。

さあ、そろそろオレのサラブレッドは第四コーナーを曲がりきってしまった。限界点はすぐそこっ！

次がラストチャンスだ！ギブミーチャンスだ！最後に掛けてみたいんだ！電波少年的トイレ探しの旅♪

てな事をやっているうちに、向かいから体格のいい黒人の兄ちゃん

がやってくる。

お！なんかコイツ、エミネムに似てるな……よし、ラップっぽく聞いてみるか。

「YO！ジエン・トル・メン！YO！ウェア・イズ・WC？」

「あ！ぼく日本人なんで、日本語で大丈夫ですよ」
ずるっ！

不覚にも一昔前のリアクションとってしまったYO！

てか、この人日本人！？こんなに黒くてデカいのに！？てか、見た目によらず物腰低っ！飯にも、あのエミネムに似てるんだぞ？

「あ、すいません。トイレってどこでしょうか？」

「トイレですか？案内しますよ、こっちです」

そう言くと、エミネム風の兄ちゃんは歩いていく。オレは後ろから着いていく。

やほーい！やっとトイレに行ける！

オレの中の蛇口はギリギリ閉じているが、代わりに魂の蛇口は全開だ。きつと一週間のくらい意識不明ですむだろう。

そして、オレはやっとトイレらしき場所についた。だけど、まだ油断は出来ない。きつと何かある。

オレはエミネム風兄ちゃんに別れを告げて、トイレらしき場所に入っていく。

おお！あれこそまさしく便器！便器がこれほどまで愛おしく見えたのは初めてだ。今、便器と上戸彩のどっちを選ぶと言われたら……うん。それはそれ、これはこれ。

オレは便器へと駆け寄る。そして、おもむろにベルトに手を伸ばした。と思ったであろうが、オレはそんな初心者じゃない。まずは便器をじつくりと観察し始める。

つて、そんな余裕があるかい！！今のオレを一言でいうと『表面張力』。爆発寸前だ。オレはベルトに手を掛ける。

さあ、至福の時だ。

ザーーーー。

皆さん、今までありがとう。オレはようやく使命を果たせた。これ
もひとえにオレの才能の賜物だと自負している。
しかしながら、緊急事態だ。

実はここのトイレ、小便秘しか存在していない。

そしてオレは、強烈な便意を催している。

もちろん……大だ。

脂汗が滲み出て、背中の中の丸はすでにびしょびしょだ。
後は言わなくても分かると思う。

じゃあ、またどこかで逢おう。アディダス！

（後書き）

最後まで付き合っていたいただき、本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9276a/>

ウェアイズWC

2011年1月16日01時07分発行